

幼見之教



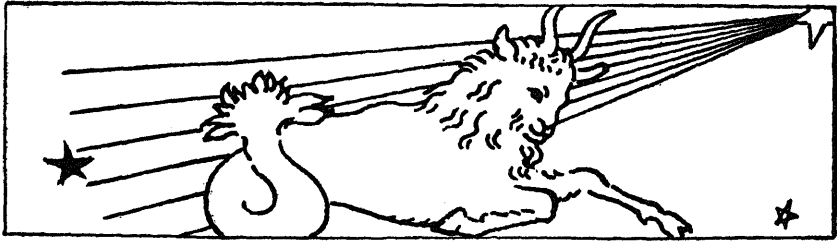
第十號

十月號

第十四卷

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會



號 十 第 育 教 の 兒 幼 卷 三 十 四 第

— (次 目) —

<p>——— (次 目) ———</p> <p>明治天皇御製謹誦……………倉橋惣三(一)</p> <p>戦時保育の本義と實際……………倉橋惣三(二)</p> <p>戦時下幼児の保健問題……………齋藤文雄(六)</p> <p>問題の子さも調査報告……………みどり會研究部(二三)</p> <p>「ススメ ススメ」に「ウミノコ ワレラ」の作詞者として……………倉橋惣三(一九)</p> <p>尾久隣保館を訪ねて……………上遠文子(二七)</p> <p>~~~~~</p> <p>幼児の母……………(二九)</p> <p>戦時下の母の三大任務―幼稚園と家庭―廢刊の御挨拶(倉橋惣三)―この頃の朝夕に ―家庭で幼児に聴かせるおはなしについて</p>	<p>明治天皇御製謹誦……………倉橋惣三(一)</p> <p>戦時保育の本義と實際……………倉橋惣三(二)</p> <p>戦時下幼児の保健問題……………齋藤文雄(六)</p> <p>問題の子さも調査報告……………みどり會研究部(二三)</p> <p>「ススメ ススメ」に「ウミノコ ワレラ」の作詞者として……………倉橋惣三(一九)</p> <p>尾久隣保館を訪ねて……………上遠文子(二七)</p> <p>~~~~~</p> <p>幼児の母……………(二九)</p>
--	---

保 育 奉 公

大 東 亞 戰 爭 必 勝 完 遂

明治天皇御製

子

いはけなく遊ぶ子どものさまみればわれもをさなくなるこゝちして

ほんごうに子ぎもらしく、一心に遊び入つてゐる子ぎもをみるこゝち、われもひかさ
れて幼くなる。畏くも偉いなるみかぎの、かう詠せされてあるのである。

そうまでも眞純な子ぎもの生活は貴い。眞純でなくて、かうも大きい力をもちよ
うはないのである。その前には、一切の複雑な迂曲が捨拂せられて、ありのまま
へ歸らされ、すなをへ立ち戻らされずになる。位をも忘れ、賢さをも忘れ、身
のおこなたるこぎをさへ忘れて、子ぎもごゝろになりきるのである。

その時、子ぎもゝ亦、おきなの中に眞純を見出し、心から遊びもし語りもする
であらう。教へられるよりも前に、導かれるよりも前に、それがどんなに子ぎもに嬉
しいこぎであらうか。眞實は眞實をのみ求めるからである。

教へるよりも遊ばせるこぎの方がむづかしい。遊ばせるよりも共に遊ぶこぎの方
がむづかしい。共に遊ぶ前に、眞に遊ばせられるこぎこそむづかしい。

それにしても、子ぎもの前に子ぎもになれるためには、先づ子ぎもごゝろをもつ
てゐるのだからなければなるまい。子ぎもの眞純が貴いと共に、その子ぎもごゝろを失
はずにゐるおきなも尙ほ貴い。語に「大人者不失其赤子之心者也」(孟子)とある。

まごに畏れ多い申しようではあるが、大帝の御前に、子ぎもらは如何に心から、
なつき親しみ奉るこぎであらうと、謹誦にそへて思ひまいらせざるにられない。

戰時保育の本義と實際

—昭和十八年八月戰時保育講習會講義筆記—

倉 橋 惣 三

目 次

- 一 戰時保育の意義
- 二 戰時保育の重要性
- 三 戰時保育の問題
 - (一) 保育の目的方面に就て
 - (二) 保育の方法方面に就て
 - (三) 保育の内容方面に就て
- 四 戰爭それ自身の取入れ
- 五 戰時下生活の取入れ

第二日—八月二日(上)

引續き御勉強であります、お互がかうして講習して居ります間に、實に世界は非常な變化を刻々にしてゐるのであります。實に容易ならざる事でありませぬ。幼稚園の講習がかゝる世界の大變動を、しかもそれが日本に一々關係してゐる重大事件を背景として開かれたことはこれまでなか

つた事でありませぬ。此の講習の始まる前に伊太利の大變動があり、前日は全く違つた伊太利になつた。その最中に皆さんはお集りになつたわけでありませぬ。途中にムッソリーニを見舞つて來たさいふ人もあるかもしれない。(笑)伊太利の變動については濫に臆測を許されぬことでありませぬ、何れにしても樞軸の一角に於て然もその一角を代表する巨頭が急にかうなつたさいふ事實は容易のことでありませぬ。

またこの集りの第一日に新しい獨立國が出來ました。一國の獨立といふ事は容易ならざる事でありませぬ。殊にその國は獨立即宣戰布告をなし、獨立と同時に命がけの戦にまびこんだのであります。かういふ事は歴史上で聞く事はあつても、昔話のやうで實感が出なかつたが、今日は我々の眼前に實に生々しくそれを痛感するのであります。更に中華民國に對する日本の大きな德義觀としてあの租界—獨立國でありながら外國に部分的に支配されてゐた租界の取返

し、裁判權の取返しが、日本の力によつて與へられましたこと、これ亦容易ならざる出來事であります。我々は大東亞共榮圈の理想を詩の言葉のやうに聞いてゐてはならぬ。大東亞共榮圈といふものはその中の單位がしつかりしなければ出來ません。この手はじめがビルマの獨立に第一の實現を見、中華民國に實質的獨立性の賦加されたことでもあります。ビルマといへば、今正に獨立せんとし、日本も亦それを援けやうとして、尙且、敵米英に今尙最も密接な關係を持つてゐる印度に隣接してゐるところでもあります。從つて之に對するビルマ獨立の意義は誠に深いのであります。又、考へるに、共榮圈内の國が獨立し、獨自の裁判權、軍事實權を持つといふ事は、日本の軍隊による行政が撤廢せられたことでもあります。この事は、共榮圈の單位がしつかりするといふ喜びの他に、共榮圈内に味方としては頼もしい強い相手がふえる事になるのであります。種々私共に考へさせるのであります。共榮圈内の一國一國を強き獨立國にする程のこゝを敢へて日本はしてゐるのであります。皆さん既に御承知の時局の話をこゝで敢へてするのは、かうしてゐる間にもこの世界に大變動が行はれてゐる事を思ふからであります。更に我國にまつて南の戰は非常に熾烈であります。さられた地をりりもさうする敵の反抗勢力は増加してゐるのであります。或はこのお話の間におそ

らくソロモン群島のごこかで非常な戰が行はれてゐるに違ひないのであります。我々は幸にも戰の報せと同時に勝利の報せを聞くことが出來るのでありますが、戰つてゐる時には、勝は決定してゐないのであります。かうやつてゐるに戰は遙かなところに進行はれてゐるのであるが、時間的には今只今行はれてゐる事を忘れてはならないのであります。我々が我等の職域に於て戰争目的に致致する保育をなし、重點を戰争目的と同じところに於いて、保育してゆくといふ事は、理窟でなく我々の氣持に當然起ることであります。この意味において、先日の講義の終りに、體力を重んじるにも、何の點を重んじるかを申しました。健康は平時は人間の裝飾である、美觀であります。今日は形そのものよりも體力であり、刹那的でなくこゝまでもちこたへてゆくかといふ體力であります。又、性格は人間教育に何時も大切で且多方面な價値があり、却つて時に相殺するやうなもの強く優しくさへあります。今日は戰争目的に必要な性格はどれか考へるのであります。今日、多少學問がなくとも、才能がなくともかまひません。道徳性がなくともよいままでは申しませんが、道徳を理想の上で確立するといふ静けさは今日まつてゐられないのであります。國民的性格さへもてば、他はこれに比して第二、第三となりませう。國民的性格さへもてば、頼もしいのであり

ます。お役に立つのであります。國民的性情は何か。これを二に分けました。一は内容的に國民精神が十分にある事であり、しかしそれ丈ではない、同時に又それらの事は殊によるミ幼稚園に在る間において子供に與へられ得るのは極めて僅かな事かもしれない。勿論幼児期においてその基礎を與へねばなりません、國民精神の完成は後のごきで、幼児期には國民精神の芽生え、苗にミイまるのであります。ところが國民的性情のもう一つ、國民ミは複數であるミいふ事であり、個人は國民であるが、國民活動は複數で行はれるのであります。一人、一人がごれ程、國民的性情をもつてゐても、それが合はざり、一つにやらなければ國民活動は出来ません。平時ならばお互の間に國民的性情を以て交はればよい。戦時ミは國民的性情を擧げて他の國民全體にぶつかつてゐるのである。してみれば戦時下の國民活動は日本人が一つになつてゐるミいふ事の他にない、國民的に協和一致出来るかどうかが問題であります。伊太利の問題を斷片的に聞いて、もミより外交的な深いこきなきは我々の知るこころではありませんが、伊太利は國民的に完全に合體してはるなかつたミいふ事だけは感じられるのであります。ファツシヨの大きな勢力、それを人格的に代表するムツソリーニに對しても、多くの反ファツシヨがあつた事を今にして我々は知るのであります。

四

す。そしてこのこきは伊太利自身はつきりミ、國民的統一がなかつたミいつてゐるのであります。ミに角伊太利はミにかくシシリーに敵をあんなに上陸させた。しかも伊太利都市の多くが空爆されてゐるのであります。ごうして伊太利がこんなこきにされたのかを今更に感ずるのであります。その一は今にして始めて知る、伊太利國民は一人一人は國を愛し、強くもあつたらうが、國民的に一致してゐなかつたのであります。國民的に強くなるか否かは實にこゝにある。今日文化國においては個人の差は少いのであります、それが一つに集るか否かがその國の國力になるのであります。故に、愛國の精神で誰ミでも一にならずにゐられないやうな性格、厭だが一になるミいふ義務や社會道德ではない。一にならざるを得ない性格を養つておくこきが大切であります。

我々は何故國民でさへ一になれないかミ考へるのであります、それは自己を中心にして種々考へる方面の發達がその原因でありませう。國民的性情の内容については幼稚園で爲し得るのはその基を礎くこきだけであります、人ミ共になれるミいふ性格の傾向は大きくなるミ難しくなるのであります。幼稚園令に「善良ナル性情ヲ養ヒ」ミありますがそれは國民的團結ミいふ善良さミ解釋出来るのであります。實際保育上、完全でない性格の子供は多くあり、殊

に家庭は我子を教育する最も大切な場所でありましたが、そして日本の子に育てるのに意義があるのでありますが、そこでは我子を我子として育てます。力点をこゝにおきます。それは家庭教育の良いところでありますが、幼稚園には我子とする強さはありません。

しかしそのかたより方もないのであります。幼稚園に於て人三一しよになる性格を養ふのであります。人三一しよになる三いつても單なる社會性ではなく、國民的性格の基本三して考へられる三ところに幼稚園の組織機構に非常な意味をもつのであります。幼児期の間に社會性の完全なる様相は與へ得ませんけれども傍觀的、批判的態度を三つてゐる三いふ我々にありかちの性格を幼児期において根こそぎ三らなければなりません。之こそ幼稚園が國民鍊成に役立つ立派なお役目であります。幼稚園に來た子供はお三なし、行儀がよい三いふのは第二義であります。少しは亂暴であり、粗野であつても人三共になるのを妨げる嫌な性格は持つてゐない。これが第一であります。

たゞこゝに考へるのは、皆三一になつて協同する事はこんな大きな力を出す、その事はそこに靜かな團體をつくる事であり、自分を控へる事になります。踏みこまざるのも一致であります。しかし戦争は集つた力が動的に敵にぶつからなければならぬ。これを本體三します。ぶ

つからん三欲すれば自ら挺身しなければなりません。戦時には協和と挺身を伴はねばなりません。協和の中にある挺身が大切なのであります。挺身三は全體の目的を一身に擔つてゆくゆき方であり、全體の目的を全體で分けあつて、誰がゆくか三他を省みてゐるのでは戦争になりません。又先に立つてゆくにしても自分の手柄三する爲にゆくのでは協和が崩れてしまひます。人三共に集るだけでなく、自分に得な事だけでなく全體が逡巡する損な事を挺身して行ふのであります。あの子供達の中にも集る事を得三し、身を守る事のみ汲々して挺身を缺く三が多く、先に立つてする三は自分の我儘から出る三いふ事が多いのであります。編隊を組んで飛びながらしかも挺身體當りを行ふ三いふ事は幼稚園では出来ませんが、幼稚園の子供を性格的に訓練するにはこれを頭において、この反對を削除する三に力をそゝがねばなりません。この事について、保育における性格教育を如何に解釋し、何處に重點をおくかの意義があるわけであり、體力の三ころでも申しましたが、一人でも弱くてはならぬ三同様、性格においても一人でもひねくれであつてはなりません。今、話して居る事は保育について、戦時目的に合致してゐるや否やを嚴省してゐるのであります。

戦時下幼児の保健問題

六

恩賜財團愛育會保健部長 醫學博士 齋藤文雄

我國は今戦つてゐる。勝抜くために我々は不自由もいさはず、それに協力してゐる。

我々保健のために種々の事が云はれる。理想はさておき、今日をいかに切抜けるかを考へる。幼児保健、乳児保健といふ事も戦時下特にその洗禮をうけること同じであります。今までは立派に玩具も與へられる。乳も與へられるので、幼児は不平を云はずに過したが、今日の幼児保健は愈々接迫して、相當切りつめた保健を考へぬと通用しなくなつた。そこで今回は戦時保健について話を進めま

す。
今日誰でも職域奉公は考へる所であります。保育云ふ事は、保姆自身でも又、國家ミしても戦時下不必要の事ミ考へる者もあるがそれは違ふと思ふ、否こんな時こそ大事な事でありませぬ。その點一般に認識のない事は残念であります。接迫してくるミ子供の事は第二、第三に考へられるが、それはいけません。弱體化せぬ様心掛けるのが我々の責務であります。唯今の子供が大きくなり、二十歳、三十

歳になつて今の我々のした事に對し批難を被るやうな事はせぬ様に念願する所であります。歐洲戦争の時、オストリアのウィーンの醫科大學にビルケミ云ふ教授がおりました。彼は小兒科醫であります。種々立派な業績があり、學問上にも立派な研究をしてゐた。戦争が始まりオーストリアが愈々窮乏した時、研究を止め幼児のために自ら街頭に立ち、佛蘭西、伊太利に飛び、食料問題を頼み、七十萬の幼児を戦争が終るまで飢えしめなかつた云ふ。學者であらうが又他の職のものであらうが、戦争中は愈々の場合御國の爲には、研究も中止してもよいのではないかミ、思はれるのであります。人を對照ミしてゆく我々の仕事にはこ

ミに大事な事だミ思ひます。人を對照の職は、職業を考へてはいけぬ。我々は保姆なりミか醫師なりミか職業のみミ考へるミ、其處にいけない所があります。

職業ミしてでなく人ミしての務は奉仕の仕事ミ考へてこそ價值がある。義務的に考へるやうになつたらその人の仕事に對する生命は絶たれたミ云つてよろしい。人を相手の

我々こそ國家に報する奉仕の心がなければいけなく又今それが一番大切な事なのであります。

一、保育者の心構

さて、戦時下の保健についてお話致します。先づ第一、心掛けねばならぬ事はお母さんとの協力を取上げたいと思ひます。子供を育てる事は今は個人的の事ではありません。幼稚園に來てゐる子供達を單に保姆對子供といふ風に考へずに保姆の國家意識で保育せねばなりません。これはお母さん達も同様であります。月謝を拂つてゐるからもう好いのだ云ふのではなり立ちません。お母さん達も保姆に努力してほしい。保姆も國家的の仕事のためにお母さん達と共に努力してほしい。その意味で家庭訪問がもつミ、行はれてほしいと思ひます。毎日ガリ板(膳寫板)で刷つた配り物だけではいけません。辨當を持つて來る。御辨當の内容はこの時節にも似は、ず得難いものも入りすばらしい。それゆゑその人の家庭は案外好い家庭かといふがそこへ行つてみるに家庭には何もないにかゝわらずお辨當には母親が一生懸命奔走し、家中のものもそれに協力してゐる有様であります。これは幼稚園だけにあるては解らぬ、家庭に入り始めて解る事であります。お母さん達にその時如何に云ふか、國家意識をどう知らせるかは今今の保健を如何に考へるか云ふ事であります。

保姆達は子供を授かると同時に、お母さんも同時に授つたつもりで指導するに云ふ事ではなければならぬ。お母さんにも保姆の協力により徹底する。

二、現在の幼児の身體

次の問題は幼児の體の事です。即ち身體精神の發育の事です。しかし、子供の發育の中で戦時下で云ふ影響があるかといふ事についてお話致します。

戦争が長びく國民全體の體力は劣る。これは戦争の持つてゐる通有性であります。兎に角戦争が長びく、種種の意味の困難がこもなひ、これが幼児の體にも影響するものであります。さんな影響が申します、大きいものから影響致します。昨年は幼児には影響しないに申し上げました。しかしながら同時に申し上げた事は、これから先は心配であるに申しましたが、今年には既にこれが出てゐるのであります。

兎に角、全般的に申上げるに、發育が劣る前に先づ筋肉の力、血液の量、病氣に罹りし時の抵抗力等に影響が來る事は、我々の心配する所でありまして、この點都會が大きい程影響が大きく心配であります。

兎に角、戦争により子供自身の體力が衰へて來てゐる事はこれからの對策をする上に大事な事です。普段でも發育の事には、種々の問題が込合つてゐます。例へば、

環境によつて違ふ。都會の者は背は高いが細い、田舎の者は背は低いが横にがつちりしてゐます。子供が三歳になるミ都會型ミ田舎型に分れるミ金澤の大學の衛生學教室より發表してゐます。

發育に影響するものゝ中慢性の病氣、その中で特に目立つのは、結核で、これがあるミ發育に相當影響する。またその他に季節、遺傳の爲の影響ミ云ふ因子がある。又その他戦争ミ云ふ原因が影響するのであります。

これは何故かミ申しますミ結局榮養の點であります。食物は大人にも子供にも大事な役目をするからであります。

大人だミ食物は力ミなり體補充ミなるだけだが、子供はそれ以外發育にも影響し、子供の榮養の好い悪いは直ちに子供の發育に影響します。

例へば、子供一人一疋に對し、カロリー一〇〇より八〇の熱量を取らねば丈夫に育たぬ。

それが今年は何へないミいけなくなつて來ました。理想論では現在子供は育ちません。そこで先づ

榮養の問題からお話し致しませう。

例へば、含水炭素ですが、それに致しまして、此處に大きな事があります。昨年は本講習會ではお米の事には考慮しなくても好かつたが、今日はそれがあります。

玄米を食べぬミ間に合はぬ今日になつて參りました。更

にも一つ日本人は米の執着が強すぎるミいふこゝであります。

お米を食べなくても日本人ミしてやつてゆけるミ云ふ事は山梨縣の富士山麓のミうもろこしの村、東北地方のひえの村、九州地方の薩摩藩の常食村なミあるこゝでも判ります。

主食はお米だけに頼らず、他のもので補つてゆかねばならぬミ云ふ事が大切であります。

現在東京都は、幼児、三歳、四歳は百二十瓦の米の配給ですが、幼稚園に來てゐる時は、晝だけで平均九十三瓦食べます。三〇瓦は朝ミ晩の食事量だミ云ふ事になります。

お米もたらずお辨當も持つてゆかれず、お晝には歸つて粥を食べるミ云ふ事も、可愛相な事でありませう。それゆゑ、田舎に親戚のないものは困ります。

兎角、お米以外のものに、もつミくたよらねばなりません。玉蜀黍、お芋、等は出来るだけ利用し、取つておけるものはミつておきます。次に蛋白質は子供の發育の上にも大事なものであります。蛋白質を確保するミいふ事は今日では殆んど魚肉だけになります。兎角魚肉なミは配給されたものを上手に活かす事が大切であります。或時はお芋飯に、或時は豆御飯にミ、その點、地方に於ては上手に利用されております。肉が無いから蛋白質が無いミ考へなく

てもよろしい。蝗、蛙でも充分蛋白質ミして用ひてよろしいのであります。蝗等は子供はよるこんで食べます。尙、蛹、繭の中の蛹もよろしい。蛹は小さいのもありますが、繭の中に入らぬ蛹、(平板繭にして糸をはかせる)その蛹はすぐ處分するミ、香も少しで中に完全な榮養を持つております。蛋白質、脂肪を含み、役に立ちます。蝗(稻子)の様なものは、ミつておけるもので、この様なものは非常時食料ミして取つて置くミ役に立つものであります。又幼稚園等で給食に用ひてもよろしい。ヴィタミンの野菜等の補給、食物の貯藏をして置く事も考へたらよろしいと思ひます。

我國で最も簡単な方法で貯藏するのが上手なのは東北地方であります。戦時下ミ致しまして、その點學ばなければなりません。今まででも貯藏については考へねばならないのですが、今日尙一層考慮せねばなりません。

給食してゐる所は保姆の考へをそのまゝ生かしてゆけませんが、給食の不可能なる所は、指導方法ミして、料理ミ、食べ方について、無駄にせぬ様注意しなければなりません。實際はまだく無駄があります。普通の肉の所よりも、血合ひでも、皮でも食べねばなりません。

そいふ食べ方等について母親達にも簡単な利用方法、食べ方について話しておかねばなりません。又よく噛んで食べさせる。これは大切な事でよく噛まねばいけません。

子供にもよく教へます。噛む事を教へる事は難しい事です、今日さうしても此事は必要であります。

過食をさせない事。幼児に過食をさせるのはとてもいけない事です。少食の時よりも幼児は過食の時の方が多いのです。食物は少し位足りなくても病氣にはなりません。食物のない時でも過食で病氣して瘦せてしまふものがあります。小さい子供が普通澤山食べるのはひかへたい事であり、主食ならず間食にあらはれるのは親の責任であります。親が子供に食物を與へ過ぎるからで、「お菓子を上げるから」ミ、子供の弱點をねらつて大人が子供を動かすのはいけません。間食の回数に都會でも農家でも七八回位は口にもものを入れてゐる。澤山食べるから丈夫云ふのは違つて、間食の少ないものが一番丈夫であるといふ事がわかります。

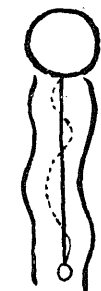
もう一つの指導の問題は偏食させるなといふ事で、偏食すれば、體が弱くなる、體が弱くなるが故に偏食をする云ふ様に、お互が結びついて、んく廣がつてゆきます。偏食だけはなほさない立派に育つ譯はないのでありますから、今よりさしく習慣を改めてゆかねばならぬのであります。

第二の幼児の鍊成云ふ事に入ります。今日鍊成云ふ事は、子供にも大人にも、男も女も、老若を問はず要望さ

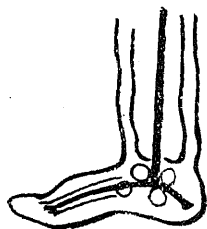
れてゐる事で、人口政策確立要綱に申します厚生省が發表したものでそれをみますに「家三民族を基礎とする世界觀に立脚して」にあります。今までの問題は家のみでしたが家三民族になつてゐます。質に於ても量に於ても日本人は殖えねばならぬ。今日維持してゆかねばならぬ家三民族を考へますに、家三幼児でも、國家三幼児といつてもよろしい。幼児の鍊成を考へる時、大人三違ふ特長があります。それは精神であります。鍊成の際、大人は鍊成されるまき、自分の覺悟があります。指導者自身もかくあるべしまたまきこみます。それは幼児にはむづかしい。子供を指導し鍊成するには精神よりも子供の日常生活を通して鍊成するのであります。家庭ならば家庭で、幼稚園ならば幼稚園で、こいふ様に生活を通しての鍊成であります。この目標は獨立不羈の、人に世話にならずにやるこいふ事が大事な基礎の問題で、種々今までやつて來た事を自ら行ふのであります。食事前後の規則、初歩衛生の絶えざる實現を保健上大事な事であります。それも指導者が指導する事なしにさつさきする様になつてほしいものであります。自然に子供の體力も養成し、保姆も子供も母も助かります。そして餘りし精力は他の方につかふのであります。一々世話をする時間も足りません。さつさきやらせる時間も生み出せませす。子供の鍊成に云ふに個人的體力の差を考へねば

なりません。幼稚園には一、二年三あります。二年目の年長組に或體鍊をやる三します。二年の體鍊に弱い子供は出來ませんから一年にまはすこいふ事も起つてきます。最近大病したまか、結核の反應が最近出た三云ふ風な子供は多少の例外を作らねばなりません。子供の身體の鍛鍊には、忍耐力、精神力が必要で、これを養つてゆく體が必要で、これを行はぬ三結果はいけません。日常生活をきちんと自分で何でもする事から鍊成する三一番好い三思ひます。

この頃は遊具も不自由で、體力鍊成は遊具使用が困難であります。しからは幼児の時はさういふ時からすればよいか三申しますに、遊具が無い三しますに、初めは歩く事をするのがよろしい。但し重いものを持たせる三危険であります。この頃になる三子供は脊髓に彎曲が出てくる。生理



的彎曲をする。この時期に重いものを背おわせるのは感心しない事でありませす。



もう一つは扁平足の事であります。人間の足には一つの穹窿があるので幼児期に重

いものを持たせるに、それがおされて扁平足になります。それゆゑ歩かせる事は結構ですが重いものを持たせるのは考へねばなりません。

第三番目は天然資源の利用であります。普通あるものを利用する事であります。我々は普段幼稚園で行ふ日光浴、空気浴、又風、水で普段何處でも得られるものをよく利用するのであります。平時でもよく利用されねばならぬのですが、榮養が足りぬ所は、この天然資源の利用で補充してゆかねばならないと考へます。光にあてよ、日にあてよは常識ですが戦時下にはもう一度考へなほします。よく知つていながら、水の利用法、風の利用法には家庭に行くに利用されぬ所が多い様です。天然資源こそ子供の保健上もつこく利用されたいと思ひます。例へば、水を用ふに云ふ事も、手を洗ふに黴菌を落すに云ふ事も消極的に保健で、體、足を洗ふに云ふ事は皮膚そのものを鍛錬する事であり、風により鍛錬に云ふ事は水で錬えるのも同じであります。血管を膨したり縮せたりに云ふ事が必要で、神經の働を敏速にする事が鍛錬であります。それゆゑ風よりも水の方が、水よりも海水がよいと云へます。兎角水でも相當鍛錬出来るのであります。水浴は三歳以下はあまり鍛錬の意味には役立ちません。皮膚の鍛錬は出來ますが、さういふ所に差別するかと申しますと海なり河なりに入つて子供

が冷えきらぬ體力をもつてゐるに云ふ事でこれは三歳以上でないに云つてないので水の中で自分で能動的にあれば事が出來ないのであります。海邊、川邊でぼちや〜遊ぶのはよろしい。

風に吹かれる事も重要であります。皮膚が風に吹かれるのは皮膚の血管の伸縮で、皮膚が準備行動するのであります。膨張したつきりであるに、外が冷えてゐるにもかゝらず膨張した神經が働くので風邪を引きます。冬にゆくに從つて厚着をさせるのですから秋が一番大切であります。その頃母親がその事を徹底させる事が必要です。

第四は豫防の問題でこれは子供を澤山預つて痛切に感じる事であります。戦時下に病氣をするのは一番困ります。戦時下は病氣をしない事で即ち病氣の豫防をせねばなりません。結局子供の體の抵抗力の事でこれがあれば病氣は防げるし、病氣にも負けません。榮養を正しく取り偏食しない様、過食にもならぬ様にする事が大切でそれと同時に皮膚の抵抗力をつけ少し位では風邪を引かぬ抵抗力が必要であります。

又病氣に對する免疫に云ふ事でもあります。

能動的 (アチ)

免疫

受動的

(すぐ出来るが長つゞきしない出來あがつたものとする)

免疫には能動的の受動的のあります。能動的は、例へばジフテリアの毒を集めたものを注射するこ子供の中で毒を作るこ能動的免疫が出来るわけです。受動的は、子供の咽喉に義膜がついてあるこいふ時にワクチンをつけても間に合いません。その場合、馬に注射して馬の體の中に抵抗力を作り、その抵抗力のある血液から分けた血清を子供に注射する事でこの中には細菌を殺す力が澤山あります。

す。何れにしても病氣に對する抵抗は免疫であります。麻疹はうつる事九八%の感染率を持つてゐます。しかし生後一、二ヶ月経つた子供は罹りません。これは母親の中にいる時免疫體を受動的にもらつて來てゐるのでさういふ時は決して罹りません。母親の免疫性がなくなるこ罹り易くなります。一度麻疹に罹るこ能動的免疫が出來一生罹らぬ様になります。

〔新刊紹介〕

愛育の玩具 中島義友著

協同公社出版部

麴町區有樂町一ノ二

定價 一、^四入〇

繪本の研究

牛島義友 共著
矢部信一

協同公社出版部

定價 二、〇〇

右兩書は著者の長年の御研究の結實せしものにして、保姆諸氏の御精讀を切にお薦めする (編輯部)

問題の子ども調査報告

みどり會研究部

みどり會研究の一部として昨年度は「問題の子供」を取上げて見た。まづ最初に倉橋先生のお話を伺つて、一同の研究目標を左の様に考へて見た。

(一)問題の子供とは？

1、あたりまへの取扱ひではすまされぬ

子供

イ、先生をこまらせる子供

ロ、先生の手におへない子供

といふ程度で所謂部分的に何かの缺點を持つ子供であつて、全體的の特・殊・幼・兒・ではない。

(二)子供の見方を、

1、多少異常があつても異常兒視しない

こと、(一寸のことでも特殊幼児として

片附けてしまはぬこと)

2、子供を潔癖に見過ぎないこと、

3、問題の子供を「悪しき子供」と見な

いで一種の癖かたかた、病氣を持つた子供と考へ「いたわり」の氣持ちで見たいといふこと、

(三)問題となる原因調査は、

あらゆる方面から詳しく原因を調査し一つ／＼具體的に處理して行くべきであること、大人は自己修養によつて本能から起るいろ／＼の衝動をおさへてゐるが子供はそれらの衝動によつて始終壓迫されてゐる場合が多いこと、子供が子供同志の世界に暮して居る時には割合に問題がないが大人の世界に入ると問題が多くなるから個々の環境にも充分な調査をする

こと、
そしてお話の最後に先生は、どこまでも、問題の子供を「本人の悪でなくする」ところに我々の努力が必要であり、又大いに研究すべきであると結んで下さいましたが、お

話を伺へば何ふほどむづかしい問題で、考へやうでは一人も問題の子供が見付からず、所謂大人の(保母の)潔癖な見方や、收容人数の多きために起るいろ／＼な取扱ひ上の困難や、其の他保育場の環境からくる「先生だけの困る」場合が多く個々の子供の立場から考へた時に、問題の子供といふ折紙をつけるのは可愛そうではないかと考へられる場合が多く問題の子供の選定にこまつたが會員十五六名がそれ／＼過去の經驗からいろ／＼と材料を出し合つて研究して行くことに相談がまとまり、次回からはどんな小さな問題でも取りあげて保育一般としての研究をはじめて見たがその場かぎりに云ひつばなし、聞きつばなしでは大した研究にもならぬので、自分の持つてゐる問題を出来るだけ詳しく記録して皆の参考となし又倉橋先生に御指導いたさきたいものと事項の記入用紙を地方會員にも送つて材料を集めるつもりだつたが我々の意が徹底しなかつたと見えてあまり材料も集らず殘念であつた。しかし會員の持ちよつた材料で倉橋先生を中心にいる／＼と研究をすゝめて行くことが出来て嬉しかった。左にそ

の一つ、を原文のまま、皆さまの御参考にすると同時に我々の調査報告とする。

○

- 一、年齢(六歳)男児
- 一、保護者職業(元米穀商同組合員)
- 一、家庭に於ける保育の責任者(母)
- 一、家屋の周囲状況(靖國神社近き商店街)
- 一、家族(父母 兄二人 弟一人 妹一人)
- (一)問題となる状態
- (イ)入園當初はちつと椅子に腰かけて居られぬ
- (ロ)保姆の話がちつとして聞かれぬ
- (ハ)始終身體を動かしてゐて落ちつかぬ
- (ニ)友達のかいてゐる自由畫帖(知らぬ間に一寸いたづら書きをする。
- (ホ)團體行動がとれない
- (ヘ)自分の遊びに多勢入れれない(ぶらんこすべり臺等に友達をのせない)
- (三)原因と思はれる點
- (イ)母親が放任主義である
- (ロ)甘やかしすぎる

- (ハ)父親が教育に無關心である
- (三)現在までに處理して來た方法
- (イ)出来るだけ保姆が目をはなさない様遊びの仲間入りをした。
- (ロ)お話其の他の時には特に注意をして呼びかけるやうにして來たお伽噺は非常に喜んだ
- (ハ)作業の長く續いた時又よく落けたと思ふ時(この子にしては)ほめてやつた。
- (四)結果に就いて(現在保育中の考)
- (イ)一學期間は殆んど變らぬ状態を續けいつも名を呼ばれてはびつくりしてゐたが二學期になると別人の様に靜かになつて來た。
- (ロ)作業も下手ながら一生懸命やり通した
- (ハ)遊びだけは今までとかわらぬ一人一人將をしたい様でいつも友達から言ひ付けられてゐる。

○

- 一、年齢(七歳) 男児
- 一、保護者職業(印刷業)
- 一、家庭に於ける保育の責任者(母)
- 一、家屋の周囲状況(住宅地)

- 一、家族(兄一人 姉二人 弟二人)
- (一)問題となる状態
- (イ)非常に亂暴で野蠻である(行動言語)
- (ロ)規則を少しも守らない
- (一)先生の言ふ事を聞かない
- (二)眞面目な態度をとる事が出来ない
- (ニ)落付が無い(いつもそわ／＼してゐる)
- (二)原因と思はれる點
- (イ)家庭が相當だらしない様である
- (ロ)家庭の周囲が餘り品の良くない所である
- (ハ)年上の餘りよくない友達を持つてゐる
- (ニ)兄弟が多い爲どうしても手が行届かない點もある
- (三)現在までに處理してきた方法
- (イ)なるべく落付いた時間を持たせる様にした
- (ロ)先生の言ふ事を聞かない時は少しきつ罪を加へた
- (ハ)つとめて良い所を見出してほめてやる様にした(例へばお仕事など上手に出来た場合)

(四)結果に就いて(現在保育中の者)
相當骨を折つたが相變らずの状態である
まだ入園當時の方がよかつた様である、し
かしこの頃は少し落付きはある様で製作慾
が出て來た點は良いと思ふ。

○

一、年齢(七歳) 男兒

一、保護者職業(母音楽學校生徒、父なし)

一、家庭に於ける保育の責任者(叔母祖母)

一、家庭の周圍状況(倉庫と小さい店が並んである間屋が多い)

一、家族(祖母、母、叔母、叔父)

(一)問題となる状態

(イ)生意氣な口答へをする

(ロ)他の子供に悪智恵をつける

(ハ)他の子供を馬鹿にする

(ニ)原因と思はれる點

(イ)大きい子供とばかり遊ぶ事

(ロ)一人子でしかも母が學校に行つてある爲に居る者が餘り甘くなりがちである。

(ハ)頭が良い

(三)現在までに處理してきた方法

(イ)家庭と連絡をとり家でやかましく云つてもらつた

(一)口の達者な事を云つてはいけない

(二)先生のおつしやる事を良く聞きなさい

(ロ)大きい子供と成可く遊ばぬ様にした

(ハ)頭は進んでるのでお母さんや叔母さんから歌や他の事を教へて貰つて餘分の勢力を悪い方へ向けない様にした

(四)結果に就いて(現在保育中の者)

以前より他の子供達が目立つて大きくなつたので餘り馬鹿にしなくなつた

先生の言ふ事をよく聞き決して口答へをしなくなつた

素直になつた爲他の子供をけしかける様な事もなくなつた。

○

一、年齢(七歳)男兒

一、保護者職業(木版印刷業)

一、家庭に於ける保育の責任者(母)

一、家庭の周圍状況(神社學校に隣接して居る環境としては宜しいと思はれます)

一、家族(父母 兄二人 姉三人)

(一)問題となる状態

(イ)自我を通らぬ時青すじを立て、怒り泣きかみつつきつねりけりあくまで自我を通さうとします

(ロ)發作的に何もしいないお友達を叩いたります。

(ハ)素直になれませぬ

(二)原因と思はれる點

(イ)両親が晩年になつてからの子で末子である爲甘やかされて我儘の増長であるらしく思れます。

(ロ)家庭に複雑なものが考へられます。

(ハ)又家庭で抑制されてゐる面が幼稚園で爆發するとも考へられます。

(三)現在までに處理して來た方法

保育者としてあくまで命令の徹底を圖る事を第一として

(イ)問題となる状態の起つた時他の子供等から遠ざけ保育者と二人だけになり屋上の様な場所に連れてゆき暫く放置し監視してゐて氣持の靜まるのをまつて靜かに良くいひきかせました。

(ロ)注意の轉換を圖りました。

(ハ)最近は年長組ですから模範となるお

兄さんであると言ふ自覺を持たせて指導して居ります。

(四) 結果に就いて(現在保育中の者)

最近では幼稚園では自我が通らないと理解出来たのでせうか餘り問題を提供しなくなりましたが時々精力過剰で亂暴をしますが素直に「ごめんなさい」が言へる様になりました。本人に誇を持つたせる事は必要であると思ひます。

○

一、年齢(七歳) 男兒

一、保護者職業(菓子製造業)

一、家庭に於ける保育の責任者(母)

一、家屋の周圍狀況(商家多し)

一、家族(父母兄三人 姉二人)

(一) 問題となる状態

(イ) 全然協同遊びが出来なかつた。面白さうに遊んでゐる子を泣かせる事に興味を持つ

(ロ) お遊戯お話お歌等他の子の喜ぶ可愛なものには全然興味がなく兵隊ごつこのお遊戯、田原藤太のお話等にはほんの少し興味を持つた

(ハ) 自由畫はちつとも書けぬメチャク

書も書けないヌリエは一々色を聞きに来て真中を一寸塗る丈である。

(二) 一體に野卑な事を面白がる風がある

(ホ) 發表的な事は出来ない

(ニ) 原因と思はれる點

(イ) 亂暴なのは末子の爲とても甘やかされてゐるからもある

(ロ) 周圍が市に近く智識的でない

(ハ) 家が遠くて他の子供と馴染が無い

(ニ) 幼稚園に上るまで畫を書いたり塗つたりの經驗が全然ない。

(ホ) 内辨度の所がある。

(ハ) 身體は大きいが體力は割にない。

(三) 現在までに處理して來た方法

(イ) 餘り亂暴のはげしかつた日お歸の時園長に來て貰ひ今日背中に砂を入れたりぶらんこを落したりした子の前に手をついてあやまらす。

(ロ) 幼兒相互の制裁にまつ、悪い事をすると必ず自分が制裁されると言ふ事が分つた様だ。

(ハ) 野卑な事を面白がつて居る時私も他の子も知らない振をしてゐる。

(ニ) 書けないと言ふ時には無理に書かせ

す他の人のを見に行かせたり小さい組に留學させたりするヌリエは手傳つてやつた。

(四) 結果に就いて(現在保育中の者)

(イ) 亂暴は殆んどなくなかくれんぼ鬼ごっこ等にはすすんでまじわる。年少の子をよく世話をする。

(ロ) 野卑な事はまだ言ふ、お話と唱歌は他の子と同じ位興味を持つて來た。

(ハ) 自由畫はまだ書けない。

(ニ) ヌリエや製作の時はお手本を與へれば喜んで塗る。

○

一、年齢(七歳) 男兒

一、保護者職業(軍人)

一、家庭に於ける保育の責任者(母今まで祖母)

一、家屋の周圍狀況(住宅街最近引越して來た)

一、家族(父母 妹 女中一人)

(一) 問題となる状態

(イ) 歌が歌へない、歌詞はよく正確に覚えてゐるが全然節になつて出て來ないで首振り振つてゐる。

(ロ) 運動神経が良く働いてないかの様に

行進曲に合せて歩く時兩手が一譜に出てしまつて列に入つて行進が出来ないスキップも出来ない。

(一)一寸した所から飛下りる、中飛び障り飛びなど出来ず遊ばせ様と思ふと齒が痛くなつたりしてないしまふ。かけつこなどのかげ方は肩の方をやたらに動かしてあるがその割に進めない。遊戯も先生の通りしてあるつもりらしいが何んだかわけの分らない踊りをして手足をぐにやぐに動かしてゐる。

(二)原因と思はれる點

小さい時(朝鮮の國境で生れ)日光が足りなかつた爲關節が變なものでないかと思ふが醫者にはそんな事は無いと言はれたそうである。今迄はガラス張の部屋の中で日光に許りあたつてやつと人の中に入れる様になつた程の弱い子供だ。歌の方は父親が今でもよく歌へないから先天的ではないかの事

(三)現在までに處理して來た方法

歌の方は少し保育後のこして好きな歌を何度も何度も單音の伴奏でひいて一譜に歌つた同時に聽音をした數を少く一つものを何度も繰返して歌つた家でもレコードを聞

かせる様に頼んだ。歩く方もゆつくりと一譜に何度も練習した背の高い子供なので小さい者で足のおそい子供達の中に入れて競争して一等をとつたのでよくほめたがその時から唯の競争だけは喜んでする様になつた。遊戯は二人組んでする遊戯はしつかりした相手をつければどうにか出来る様になる。若し體に障るとと思ふと強制的にも出来ないでゐる。

(四)結果について(現在保育中の者)

歌は鯉轆りだけを一學期かゝつてどうやらおぼへる様になつた聽音はハホトだけは分るやうになつた。歩くのも少し大またで形は普通と一寸違ふが列になつて歩けるやうになつた。遊戯は一人での遊戯は未だふにやぐにしてゐる、障り物競走などは未だ一度もしない。

○

一、年齢(七歳) 男兒

一、保護者職業(屋根請負業)

一、家庭に於ける保育の責任者(母)

一、家屋の周圍状況(商店街)

一、家族(兄一人)

(一)問題となる状態

(イ)智能程度が非常に遅れてゐる
(ロ)運動神經が非常に鈍い
(一)はしこだんが降りられない
(二)調子よくかけられない
(三)スキップ遊戯等友達と一譜に出来ない

(二)原因と思はれる點

生れつきの素質によるものであると思ふ。
腦膜炎

(三)現在までに處理して來た方法

一般の子供たちより特におくれてゐるためいろ／＼手傳つて同じ程度までひき上げる様にして來た

(四)結果に就いて(現在保育中の者)

入園當時に比べると仕事などどうやら出来る様になつたし遊戯などおくれればせながらつてゆける様になつた。

○

一、年齢(十歳) 男兒

一、保護者職業(銀行員)

一、家庭に於ける保育の責任者(母)

一、家屋の周圍状況(相撲茶屋をす住宅

は別)

一、家族(七人 兄一人兄は普通なり)

(一)問題となる状態

五分乃至十分でも一つ所に静坐が出来ず
フラ〜と歩き廻る

(二)原因と思はれる點

赤坊の時から著音器をかけて枕元に置き
しと家人より耳にしてある。

(三)現在までに處理して來た方法

在園中一つ所に静坐する事に努力せしめ
效なし。唯遊戯室には二十分位は視て居ら
れた併し遊戯を記憶する事はなし

(四)結果に就いて(保育を終了せし者)

進歩なし、國民學校二年生、學校にても日
日出席する様に先生も仰せられる様です。
字の記憶もなし書く事も出来ざる様です。
字は讀めざるも年々覺えて少しは讀む。

「家庭教育紙芝居」筋書募集要項

文 部 省

大東亞戰爭に於て、日本の母の力が如何
に偉大であるかは、我等の深く感ずるところ
である。歴史を顧みるまでもなく、日本
の大なる生成發展は、日本の母によつて育
くまれて來たといつても過言ではない。日
本の母は一旦緩急あるときは、子を、夫を

戰場に送り自ら家の中心となつて、家庭を
護り通すのである。大東亞戰爭の完遂も亦
母の力に俟つところが甚だ多い。母こそ家
庭教育の中核であると共に統後第一の戦士
である。

かゝる趣旨から「今般日本の母」を主題と
する紙芝居を作成して、家庭教育の刷新振
興に資するため左記により之が筋書を募集
する次第である。

記

一、主 題

「日本の母」

(註) 昭和十七年五月文部省決定「戦時
家庭教育指導要項に依り、之が趣旨の
普及徹底に資する劇的なるものとし、
其の素材は現代に生きる母より之を求
むること。(右「戦時家庭教育指導要項」
は應募希望者にして住所氏名明記の上
申出あれば送附す)

二、筋書の長さ

四百字詰 十五枚内外

三、筋書の形式

(一)一篇につき二十場面程度にまとめ得
るものとすること。但し必ずしも専門
的紙芝居脚本の形式による必要なこと
と。

(二)地方的特殊事情等を明かにする必要
のある場合はその資料を添附するこ
と。
(三)各場面の構圖指定を爲すも可なるこ
と。

四、締 切

昭和十八年十月十五日

五、送 先

東京都麹町區霞ヶ関文部省教化局總務課
家庭教育係宛書留郵便を以て送附するこ
と。

六、審 査

文部省に審査委員會を設けて之を行ふこ
と。

七、入選發表

昭和十九年一月十日
入選者に對しては本省より通知すると共
に日本教育紙芝居協會機關誌「紙芝居」昭
和十九年一月號に掲載すること。

八、賞 金

(入選作品)

一等一篇 五百圓 二等一篇 參百圓

三等二篇各壹百圓

九、其の他

(一)應募原稿の第一面には必ず現住所、
職業、略歴、氏名(振假名を附す)を明
記すること。

(二)筋書の外に一篇に付四百字詰原稿用
紙一枚程度の梗概を附すること。

(三)入選作品と雖も本省に於て補正する
ことあること。

(四)應募原稿は一切返戻せざること。

(五)入選作品の著作権は本省に歸屬する
こと。

(六)入選作品の紙芝居製作は本省の指定
する者をして之を行はしむること。

「ススメ ススメ」と「ウミノコワレラ」の 作詞者として

倉 橋 惣 三

今年の夏の日本幼稚園協會戦時保育講習會で發表した私の二つの遊戯歌「ススメ ススメ」に「ウミノコワレラ」には、井上武士氏及び弘田龍太郎氏の作曲、戸倉ハル氏の遊戯動作のお蔭で、立派に飾られた。講習遊戯會場での實習を拜見して、その熱心を作詞者として感謝せずにはゐられなかつた。

この二つとも、作詞の第一動機は、幼児用の運動歌をつくりたいといふことであつた。情操本位のもの、生活描寫本位のもの、或はまた訓育的のもの、それ／＼いゝ歌があるが、また私自身の作詞の中にもあるが、運動歌がほしいと豫て思つてゐた。その試作である。

「ススメ ススメ」には、解釋のしようによつては、天を仰ぎ、地を踏み、前に進むといつた大哲理（？）が含まれるともいへよう。又私自身の平生のこゝろもちよこしての、そ

うした理想主題が、どこかに潜んでゐないかはいへないかも知れない。しかし、それを出さうしたのでもなく、それを主題とした象徴歌をつくらうとしたのでもない。私は元來、幼児教育には象徴主義をあまり用ひたくない主張なので、この歌でも、そうである。たゞ幼児の日常の實際の生活のまゝにして、のび／＼を向かせ、しつかり足をふんばらせ、まつすぐに進ませるだけのことである。その奥に意味がありげだつたら、寧ろ私の作詞上のまついためである。即ちそれよりも、實運動として、更に端的に言つてみれば、幼児の運動感覺としての一ぱいの満喫を、歌ひながらも存分味はせ得たいのが、私の希望である。そういふ風に歌はせて頂きたいし、そういふ風に踊らせて頂きたい。たゞし、その運動感情上、たゞのび／＼だけでなくそこに天があり、たゞひろ／＼だけでなくそこに地があ

り、たゞまつすぐだけでなくそこに道があるこゝは、號令でなく詩であるつもりである。

「ウミノコ ワレラ」の方は、どこまでも、遊びの動作そのもので、象徴歌になるこゝはないが、「ウミノコ ワレラ」の一句に、國民歌また時局歌の響があつて、たゞの運動動作だけではない感じがある。しかし、これは、歌よりさきに、幼児達もしつかりもつてゐる心なのであり、それによつて、遊びの力も一段さはある譯なのであるから、抽象理念が主になるこゝにはなるまい。兎に角、作詞の第一動機は運動歌としてあつて、遊びに使はれると同じ全身的運動を、手に足に胸に、一ぱいに張り切らせたい。たゞし、これも亦、たゞ手足の運動々作を體操してゐるのでなく、海なり川なり水池なりの實感を以て、ミビこませ、およがせ、もぐらせて頂きたい。假りに海國幼兒といふこゝは、この遊戯中一々考へなくとも、海の中、水の中だといふ實感は、決して離れさせたくない。そうでないこゝ、詩のつもりがたゞの號令になつて、折角く(？)の作詞が、陸にあがつた河童のやうにひからびて仕舞ふ。

こゝで、この歌については、之れだけおこまわりして置けばよいのであるが、われ／＼が、今日の幼兒に運動歌を興へる保育上の本旨そのものについては、いふまでもなく、はつきりした戦時保育の意識から出てゐる。平素こし

ては、幼稚園の運動歌は、幼兒に運動の快感を興へるこゝミ、のび／＼した發達を促がすこゝミが主目的になつてゐる。戦時下でも、それに變りはないが、もう一つその上に、逞しさといふこゝミがある。身體の強健さにおいても、更に精神、殊に意氣の旺盛さにおいて。

この理由については、今更説明を要しない。しかし、幼稚園從來の憤ひこしては、まださうも繊細優美といふこゝミが主になつて逞しさが足りない觀がある。殊に、藝術的な唱歌遊戯においてそうである。私は、極端なこゝミをいへば喧嘩ごつこまで、唱歌化し、遊戯化するこゝミは出來ないかゝ、時々考へてみる位である。しかし、喧嘩の本氣さ、眞剣さを、觀念化せず、情操作せず、そのありのままに歌にするこゝミは、私のやうなヘタ作詞者には出來ない。戦ごつこだつてそうである。たゞ、戦ごつこは、子さも自身にしても、ごつこのすきま(？)があるから、そのすきまのある戦争としては出せるかも知れないが、それにしてもむづかしい。舞臺上のお芝居めいた戦争ごつこ遊戯を、子さもらはなんミ思つてさせられてゐるだらうささへ眺める位である。

そこで、やつこ私にも、あんまり子さにも濟まん氣がないで作れたのが、この二つの單純な運動歌であつた。これ、なんミか戦時幼稚園の遊戯に逞しさを加へるこゝミが

ス ス × ス ス ×

香橋 環 作詞
井上 武士 作曲

♩ = 108 拍
ハキハキト

ニ ア フ ギ ヲ フ タ カ イ シ フ ロ イ
三 ア ス ス ヲ ス ア ク ヲ ミ ト ロ ホ イ ト ホ イ

ス カ イ ソ フ タ ノ ビ ノ ヲ
ト コ ロ イ ミ ケ マ ツ ツ ク

ト
ニ

ウミノコワレラ

倉橋徳三作詞
 浜田龍太郎作曲

♩ = 108

一 トビコイ ヨウイ ウヂヲ イハシ アンテ
 ニ あふげい およげい なみま くぐり みつと
 ミ モブレヨ モグレ イキヲ コラシ ムネヲ

ハツテ ウミノコワレラ ナカラ イッパイ
 けつて うみのこへたら エカラ いっぱい
 ハツテ ウミノコワレラ ナカラ エッパイ

出来たらミ、自分ひきりで願つてゐる。それで、私が若しこの遊戯の參觀をしたとしたら、形や振りよりも、幼児の全身の力のはいり方を一番に氣にするであらう。幼児のそばへ行つて、腕でも脚でもさはつてみて、その張りを見たいと思ふであらう。

次に之等の歌の曲ミ振ミを御紹介する。

ススメススメ

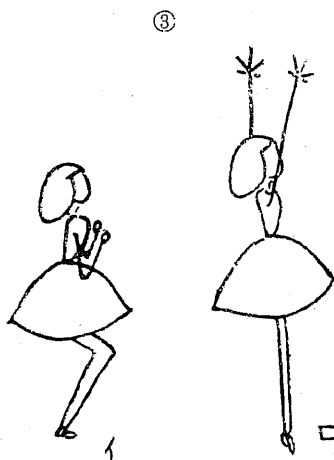
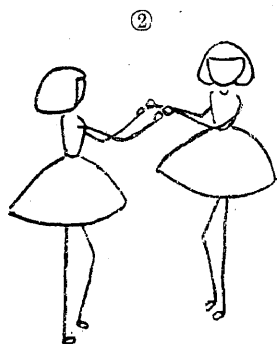
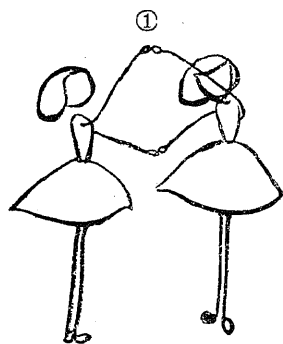
隊形。自由な隊形に①生②生二人つ
 つ向き合つて立つ。

前奏。そのまゝ、前奏の終りに二人は互ひに両手をつなぐ。

一節
 あふげく高くく(八呼間) 圖1
 両手をつないだまゝ、二呼間に一度づゝ片方の手を高く挙げ、トンネルの様に舉つた手の間から、高い空を見上げる。この動作を左右交互に四

回つらける。

高い空(三三呼間) 圖2



二節

ふめよく廣いく(八呼間) 圖4

①生は二呼間に一拍手し、②生は手を腰にさつて二呼間に一回づゝ左右の足を交互に力強く足踏みをする。

次にこの動作を①生と②生交代して行ふ。

廣い土(三三呼間)

一節の「高い空」を同様、互ひに向き

三三

で、掌をキラ〜と振る。

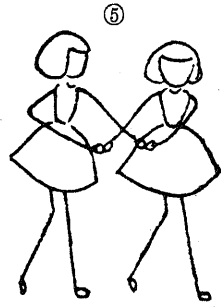
之を三回行つた後、両手を高く舉げたまま後奏が終るまで、掌をキラ〜と振る。

のびくと(八呼間) 圖3

1、①生②生は両手を離し、各人、一呼間に一度づゝ兩臂を曲げ掌を握つて體側につけ、膝を曲げてやゝ屈した後、口、膝を伸ばすと同時に兩掌を開きながら兩腕をぐんぐんに擧げる。

④



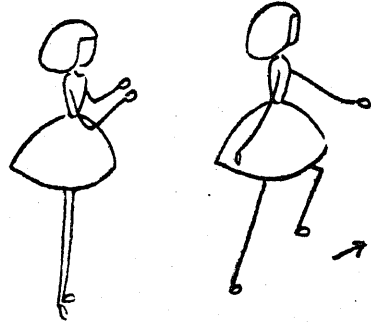


合つたまゝ、兩手を上下に振りながら三回足踏みをする。

しつかりと(八呼間) 圖5

①生②生は竝んで手を横につなぎ、後奏が終るまで自由な方向に歩く。後奏の終りの音と同時に正しく止まる。

⑥



①②生は竝んで手を横につなぎ、後奏が終るまで一拍跳で自由な方向に進む。後奏の最後の音と共に正しく止まる。

遠い道(三呼間)

一、二節のこの部分と同じ動作をする。

まっすぐに(八呼間) 圖7



三節

すすめく(四呼間) 圖6

①生は四呼間に自由な方向に一拍跳でゆき、四呼間目に兩足を揃へて止まる。

その間、②生はその位置で拍手をする。

遠いく(四呼間)

①生はその場にて拍手をし、②生は一拍跳で四呼間の中に①生のところまでゆき、四呼間目に兩足を揃へて①生の前に止まる。

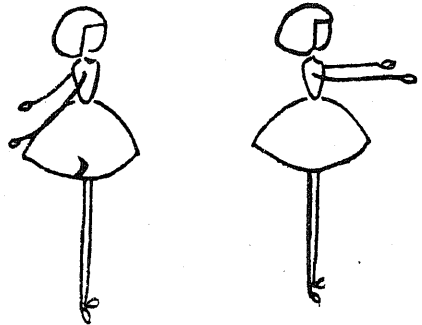
隊形。一列圓形で行ふ。

一節

とびこめ用意(四呼間) 圖一

一同圓心を向き、三呼間に兩手を前、後、前、三振り、四呼間目に兩足を揃へたまゝ兩手を振つて前方に大きく

一



跳び、ミビこみの動作をする。
腕を伸ばし(四呼間) 圖二

両手を舉げて體前で交叉し、横に大きく擴げながら四歩
後退する。

あしをけつて(四呼間) 圖三

両手を腰にミり左右の足を交互に、二回、強く足踏をす
る。

海の子われらカ一っばい(八呼間) 圖四

全生右を向き、両手をしつかり振りながら圓周に沿つて
元氣よく一拍跳ですむ。

八呼間目に兩足を揃へて踏み込んで止まるミ同時に兩手
を高く舉げて萬歳をする。

二節
泳げよ泳げ(四呼間) 圖五

圓周に沿つて右を向いたまゝ、上體を少し前傾し、平泳
ぎの様に兩手を伸ばして前から横に大きく擴げては體側
につけながら四歩前進する。

波をくどり(四呼間)

今の動作をも一度繰り返しながらか進む。

水をけつて(四呼間)

三節

もぐれよく息をこらし(八呼間) 圖六

上體を圓くし、頭を突込んで、二呼間に一回つゝ兩手を前に伸ばしては後にかく動作を四回行ひながら圓周上を右に八歩進む。

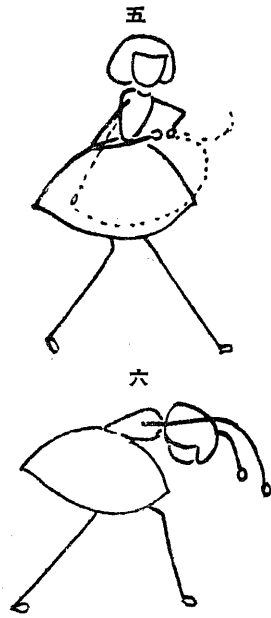
胸をはつて(四呼間)

立ち止つて兩手を腰にさり、強く二回足踏みをする。

海の子等我力一ぱい

一、二節と同じ動作を行ふ。

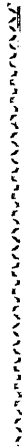
(一、二、三節共、四小節までの動作は變つてくるが、その後は、同じ動作である。)



そのまゝ止まつて兩手を腰にさり、強く足踏みを二回する。

海の子われら力一ぱい(八呼間)

一節と同じ様の動作を行ふ。



參觀記

尾久隣保館を訪ふ

附屬幼稚園 上 遠 文 子

尾久隣保館を參觀に行く。

市營自動車尾竹橋で下車、隅田川に沿つて、工場地を暫くゆくと左側に木造建築の尾久隣保館がある。

主任先生の御見えになるまで事務室でお待ちする、隣保館といふ空氣にふれた事の始めてな私は、まだ見ぬ内容を思ひめぐらしてみた。環境と云へば、こゝいら一帯は工場地帯で〇〇工場、××工場と記された建物の連続で普通の家は殆んどない。家と云へば、工場と工場の間には部落の様に、木造アパートとでも申しませうか、一間位の間口の家が續いて居り、工員の家族、その他の人々が住んでゐる。

普通工場地帯の非衛生的な様子はちつとも感ぜず、むしろ私の想像して來たのより閑靜な所である。

間もなく主任の秋谷先生がおみえになり、種々と隣保館の内容をくわしく説明していただいた。

此の隅田川に沿つた一角に、工場と共にこの隣保館をはじめ、母子寮、醫院、授産場、集會所、公園、事務所、があり、尾久住宅管理事務所管理の下に一部落をつくりて生活してゐるのである。事務所とは即ち、東京府社會事業協會主體のもので、大正十二年九月一日の關東大震災で焼出された罹災者保護の爲設置され

たもので、隣保館も大正十四年七月十五日創立してゐる。今では罹災者ばかりでなく他の人々も混つてゐる。従つて隣保館の幼児も、三通りで、普通の幼稚園児、遺族園児、いわゆる母親又は両親が生活のため一日家を開けて一日中又は續いて隣保館にあづかる園児とで、今は凡そ百二十人の園児がいられるとの事。

入園の折、家の間敷が少く、家族の人数が多く、収入額の少い人の子供程、入園の優先権を與へていられる事は、普通幼稚園とは異つた、面白い點と思ふ。母親一人で、その母親が働に出るため朝早く、此處へあつて、夜おそく迄、又は仕事で夜歸れぬ時は、母子寮の方で御世話をされる様に、朝八時より夕方四時までの保育時間も、時により延長するので五人の職員の中二人は住込みで御世話していられる。「朝八時から夕方四時までと云つても保育時間は夜中までも又それ以上も、事實上延長されてゐます」との先生の御言葉に、私共の晝中の保育など本常に贅澤な程なのだと思つて痛感致しました。

「ヤネヨリタカイコヒノホリ」お子さん達の歌ふ聲に引づられて、お遊戯室の方へ御案内していただく。凡そ二十坪程の、遊戯室、正面に五月人形が飾られてあり、左角にはピアノが置いてあり、周圍に椅子が置いてある。

結んで開いて、次々と先生のお引きになるリズムに幼児の體が動き、口が動く。明瞭な言葉動作、生氣のある活動。眞黒に垢埃に汚れた足なによき／＼だし、ぐんと踏みしめるその歩みは、此處にも少國民のひどきが感ぜられる。「前の卒業生の中にも少年飛行兵を志願し、あんなにも、あの鼻たれ小僧が立派になつたかとおどろく」との先生のお話に、埃に汚れた眞黒の顔の子供こそ、又々たのもしい日本の子供なのだと思ふ希望と期待をもつてながめる。

満三歳からあづかつていらつしやるので、まだ／＼よち／＼し、お兄さん達の間できよろ／＼した、最年少組もある。

少し高い所に据つけられた擴声器からラヂオ體操の曲が流れてきた。手足をぐんと伸ばして元氣に體操する。續いて幼児體操。あの子も、この子も、皆の手が動く、下手な人も上手な人も、一生懸命でやる。樂し相に又元氣に遊戲し、體操する時こそこの子供達の樂園なのだ。

一組づゝ行進曲にあはせて御部屋に入る。

丁度御節句近くだつたので他の三組は外の鯉のぼりを見に出かける。年長組をのぞくと、鯉の折紙をしていらした。

さすがは年長組、靜かに先生の説明に耳をかたむけて、工夫し

て折る。幼児達の手握られた四角な折紙は、一角折られ、もう一角折られて、鯉の型が出来てきた。オルカンの上にさしてある。お手本の緋鯉も、お仲間の出来るのをうれし相に眺めてゐる。午前十一時半一組づゝ今日の樂しかつた一日の話を澤山お土産にさよならをする。陽焼した黒い顔で、つぶらな目を、につこりと、「先生さようなら」銘々の草履袋を持つて歸る。幼児達の歸り途をゆくと、隣保館のすぐ前は、もう住宅がぎつしりと竝んである。少しゆくと、報徳公園があり、家に歸つた幼児達はその公園で遊ぶのだ相だ、池がありその小高い所に二宮尊徳先生をお祀りしてある神社がある。國民學校の生徒が敬禮をして通り過ぎる。鯉のぼりが五月の空を泳いでゐる。先生の御説明をうけつゝ、すつかり拜見して、種々得る所を與へられ、本當に參觀に上つた事をよかつたと一人喜ぶ。國民皆勤。非常時だ。戦時だ、皇軍は前進してゐる。私達女性もすべて働くはこの時なのだ。働く者のためにこの様な隣保館こそ重大な使命があり大いに發展すべき時だ。否發展してゐる。小さい幼児達もすべて張切つた意氣をみて、たのもしいよるこびを此處にも感じた。この尊い參觀記録を私の拙筆にて何も記す事が出来ず本當に申譯なく御詫び申上げ、又御親切な御説明御案内を深く感謝しつゝ、筆をおく。

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十八年

十月

戦時下の母の三大任務

完く生むこと、強く育てること、勇ましく獻げること、これこそ戦時下の母の三大任務です。

完く生むために、母は自ら強健でなければなりません。強く育てるために、母は賢且つ堅くなければなりません。勇ましく獻げるために、母は忠誠でなければなりません。しかも、忠誠は獻げる時において初まるものではありません。生むも、育てるも、一つに母の忠誠そのことに他なりません。

すめろぎに仕へまつれとわれを生みし

我がたらちねぞたふとかりける

子として詠じた東佐久良雄のこの歌は、先づ、母の心の中にある歌です。生んで、育て、それから後に獻ずるのではありません。獻ずることゝるで生み、獻ずることゝるで育てるのが、戦時下の母のことゝるです。

獻ずることは貴い。しかも、獻ずるために生むこと育てることは、母のみに與へられた任務、母のみに出来る忠誠です。

戦時下において、出生率の増加と、乳幼児死亡率の低減とを聞くことは、なんといふ有り難いこととせう。現に子を獻げる多くの母に敬意を表すると共に、今日のすべての日本の母に敬意を感ぜずにはあられません。

廢刊の御挨拶

「幼児の母」は、戦下物資尊重の必要上から、本號を以て廢刊いたします。甚だ遺憾ではありますが、御諒承願ひます。

「幼児の母」は昭和十五年一月發刊以來、まだ大して年を重ねて居りませんが、月と共に全国各地幼稚園の御利用と、各園保護者の方々の御愛讀とによつて、發刊部数は、號を追ふて増加、實は御註文に應じきれない有様です。しかも、その増加と用紙尊重の必要とは、益々相容れないこととなります。廢刊の已むを得ざる次第であります。

幼児保育は益々重要になります。その家庭の任務は益々重大になります。この小片子も、その發刊の初めの志を以て、愈々益々お役に立ちたいのです。併し、用紙の節減が弾丸になるといふことは、廢刊を悲しませるよりも勇ましくします。一切が勝ち抜くためです。

昭和十八年十月

日本幼稚園協會

幼稚園と家庭

倉 橋 惣 三

「幼稚園と家庭との關係は、どう考へるべきこととございませうか。いまさらのやうなお尋ねで恐れ入りますが」

「いまさらとおつしやるが、いつでも大切なことですね。その關係がよくついでない、両方ほんとうの役目がつくせませんから」

「そのお話をどうぞ」

「まづ第一に互によく、その教育的性質を理解しあつてゐることですね。家庭からは幼稚園保育といふものを、幼稚園からは家庭教育といふものを」

「幼稚園は家庭に代つて子どもを保育して下さるのではありませんか」

「いゝえ、いゝえ、家庭に代るのではありませぬ。家庭に代れるものがあるにせうか。但、家庭が特別の事情にある時は随分立ち入つたところまでお手傳ひもいたしま

保育をしてゐるかといふことです。それ

せうが、それでも矢張り、手傳ひは手傳ひです。家庭の責任を奪ふものではありません」

「お尋ひになるなんて誰れも思ひませんが、大層行届いてお世話になりますので」

「幼稚園の方では、いくらでもお世話したいのですが、また、必要があればそういふ譯になりますが、そのため、假りにも母

の責任が軽減するといふ風に考へられたら大間違ひです。母が忙しく工場に働いて、

家にゐる時間が極く少ないといふやうな場合でも、母の責任感に變りはありません。

まして、

「よく分りました。それから、幼稚園に對する家庭の理解と申しますと」

「それは、幼稚園が一體どういふ目的で、どういふ計畫で、どういふ實際で、毎日の

この頃の朝夕に

天高く馬肥ゆるの好季節です。この戦時下、病氣に罹つてしまつては困ります。何を措いても御子さんの積極的健康に意を用ひねばなりません。このよい時節に外氣と日光とは何よりの強壯劑であることも今更申すまでもない事です。が扱つて御子さんを外で遊ばせておいて、いつも健康を保つ爲には、かなりの細かい心遣が必要で、日中の暖かい中は充分に、十二分に外氣を吸はせ日光に當てることは言はずもがなですが、勢に乗じて、日没後もそのまゝ外で遊ばせておきます時には、どうかすると風邪をひくことになり易いものです。夕方の四時前後になりましたら、上に一枚軽いものを羽織るとか、今まで裸足であつたものに靴下を穿かせるとかし、日没後は必ず、家の中に入れるやうにするとか心掛けますと、健康が保てるやうです。直射日光下にある時と、日蔭に居る時との關係、或は朝と日中との關係もこんな調子で、強い

も、本に書いてあるやうな理論でなくて、我子の通つてゐる幼稚園の日々の實際に就てとす。これは案外、家庭によく理解せられてゐないものです。

「幼稚園と家庭とどういふところに大きなちがひがございますのでせうか」

「それはいろ／＼に言へますがね、先づ第一にはつきりしてゐる點は、家庭ではその子ひとりな教育し、幼稚園では、大勢の中で教育してゐることです」

「それがどういふことになりますので」

「わが子ひとりを見つめるところに、家庭教育のいゝところがあるので、だからこそ、あんな強い深い濃い愛の教育も出来るのです。しかしまた、そのために、その子を見そこなつたり狭く閉ぢこめたりしますね。あんまり一點だけ見つめると、よく見えなくなるのが一般です。そこへいくと、幼稚園は、すべての子どもを、他の子ども達との比較において、はつきり見ることが出来る、また、他の子どもとの関係の中に充分發展させることが出来ます。いつも獨りで母に抱きすくめられてゐるのでは發展出来ません」

「いろ／＼教へても頂けませんし」

「それは大したことでありません。いろ／＼のごことで生活の發展に機會を興へるといつた方がよろしいので」

「先生方が、子どもの扱ひにお上手であらうしやいますし」

「さよう。下手では大切な役がとまりませんね。しかし、それも子どもひとり／＼をといふよりは、子ども達の扱ひにといつて頂きたいですね。つまり、ひとり／＼の子どもが充分發展出来るやうに、多勢の動きを指導したり誘導したりするのですね。中々むづかしい」

「随分お躰けにもなりますね」

「そうそ、それが大切な問題でした。大勢の中では、家庭より却て躰けやすいのです。それに、我子を抱きしめてゐると、お母さんも手なしになりますからねへ、」

「ホ、ホ、ほんとに」

「幼児の母」の廢刊に就て

「幼児の母」は十月號を最後に廢刊致すことになりました。就きましては、十月號以後の前納誌代は近日、爲替を以つて御返し致します。

日本幼稚園協會事務係り

光線にあたつてゐる時は、十月中位ではほんとうに眞夏と略々同じ位の薄いものでもいゝのですが、一寸日蔭には入り、體に受けてゐた日光の暖か味が冷めてゆくに從つて冷えが身體中にまわり遂に風邪にかゝるといふことにもなりますから早朝とか、日蔭に居ります時にはやはり薄いものを羽織らせ度いものです。

それで保母の側からお母様方へのお願ですが、きせかへの便利な、一番上に一寸羽織らせてあげられるやうな手輕なものな、これから冬になるまでの間、御子様のお辨當のバスケットの中へでも、又は保母の机の上にも置いて頂き度いものです。すつと寒くなつて眞冬になり寒さも厳しくなれば、着物の厚さも又すつと厚くなり、日光の強さも弱くなるものですからさほどの細かい厚薄の差もなくりますが、十月、十一月位はどうか薄いもの(長袖の上だつたら袖無しでも可。短袖の上にてしたら長袖のものなといふ工合に)を御子様さんと共にあらせていただき度いです。

家庭で幼児に聽かせるおはなしについて

一 保 姆

近來は鍊成とか躰とか云ふことが重んじられて居りますので、御子様のご教育といふことに意を用ひられる御家庭では、殆んど凡てと云つてもいゝ程にこゝろ方面への心掛け、御注意が行き届いてゐるやうです。併し、幼稚園期のお子さんでは、その實行の徹底ともいふべきものは、完全には望めないのですが、御家庭でももう少し、獨りでどん／＼實行するといふ處まで導いて頂き度いものと思ひます。

扱てこの時局になりまして、御子さんに聞かせる「おはなし」をといふことを聞かれますが、從來の所謂童話—觀察ばなし、社會の出來事のはなし、季節のはなし、日常生活の中に出て來る事柄をお話として扱ふおはなし、こゝろ言つたお話の他に、何と言つても事務局のはなし、國體に關するお話と云つたやうな、この二つのお話が濃厚に私共の周圍にあるのではないでせうか(この二つは今までだつて相當にあつた)のですが時局のお話、主として戰爭のはなし—武勇譚・漂流記・生還譚・軍馬・軍犬・軍用鳩等々これ等のお話にも御子さんは異常の興味を感じてよく聽くものです。この種類のお話は、今一つの纏つたものとして發賣されてゐるものが極く少いのですが、新聞や、大人の讀む本として出版してありますもの、中から、幼兒によき部分を把握して聞かせるやうにしなければなりませんので、一寸面倒ですが、主材はいくらでもそこ／＼にありますから入念に氣をつけて見出して、きかせてあげて下さい。

それから我が國體を明らかにする意味で、「カミサマノオハナシ」とか古事記や日本書紀などの抜萃したものがありません。大人の私共が、あの神々様のお名まへが一おぼえきれませんで、御子さんはどうかしらなぞと思つたこともありましたが、實際にお子さんに當つて見ます

とどうしてそんなどころではありません。お名まへこそ一々正確には覚え込めないかも知れませんが、國の初め、國の成立ち、神神様の武勇談など、大變な興味の持ちやうです。

たゞ、この種のお話は或る部分々々のお話をするか、連續して神世からのお話をすることは事情によつて異りませうが、少しづつをゆつくりとよく分るやうに、そして奥深く諒解出來るやうに話して上げれば、連續してでもよく分るものです。お國の成立ち、お國柄を識らせる意味に於てこの種のおはなしも大いに加へて欲しいものです。

幼い時に聞いたお話は何となしに心に沁み込んでいつまでも残つてゐるものですが、その雰囲気は注意し度いものです。こゝろいふ神世のお話とか、皇室に關するお話などの時は、どこまでも敬虔な態度で、敬語もおろそかにしないやうに、こゝろ言つた雰囲気を作つて話し度いものです。